

令和5年度事業計画書案
令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

特定非営利活動法人石見銀山資料館

1 事業実施の方針

新型コロナウイルス感染症の対応が5類に変更となったことで、国内観光及びインバウンドなどの動きも活発化しコロナ禍前の状況に回復しつつある。失われた3年を取り戻し、法人のさらなる発展に向けて新たな取り組みにも積極的にチャレンジしたい。

公益部門では、第一に資料館運営の赤字体質からの脱却を目指し収支状況の改善に取り組みたい。とりわけ収入の柱である入館料が伸び悩む中、その対策は喫緊の課題といえる。入館者の増加にあたっては時節にあったテーマや魅力的な展示を行うことで集客につなげていくとともに、資料館や指定管理施設での講座やワークショップなども積極的に開催し公益事業の収入の底上げに努めたい。

また、教育普及活動では、地元の小中学校や高校などの石見銀山学習への支援に加え、今年度も昨年度同様、大学生を対象としたインターシップの受け入れも継続的に実施する。近年、大学生のインターシップが活発化しており、当法人が石見銀山での受け皿の一つとしてその役割を担うとともに、このような活動を通して大学との連携や交流を進めていきたい。

次に収益事業では、大森の町並み関連施設の指定管理を受けて当該年度が本業務の3年目となることから、その実績が評価される重要な年といえる。各施設の入館・宿泊者数はコロナ禍ながら堅調な伸び率を示しており、今度も確実に増やせるよう魅力的でかつ集客力のあるイベント等を開催していきたい。

その他の事業では、コロナ禍が落ち着いたこともあり世情的にはインバウンド需要を見据えた動きが活発化してきた。このような中、重要文化財熊谷家住宅での体験が注目されてきており、今後はこうしたインバウンド需要をどのように取り込んでいくべきかを検討していきたい。

今年度、大森町では石見銀山大田ひと・まちづくり事業協同組合や一般社団法人石見銀山コンソーシアムが本格的に活動を開始するほか、バーチャルミュージアムの企業である Virtualion 株式会社の進出など新たな動きが始まった。従来の組織や団体に加え、新たな組織や団体、そして人々とも連携してさらなる発展を来していきたいと思う。

2 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施予定の 日時、場所、	受益対象者の範囲 及び予定人数	事業費の 予算額 (単位：千円)
石見銀山資料館の 管理運営事業	入館券の販売、展示解 説、石見銀山遺跡のガ イダンス	通年 石見銀山資料館	一般 児童・生徒	5,478
大森の町並み関連 施設指定管理事業	熊谷家住宅・旧河島家 ・宗岡家の管理運営	通年 熊谷家、旧河島家 宗岡家	一般 児童・生徒	26,203
書籍・物品等の販売 事業	書籍・ミュージアムグ ッズ・土産等の販売	石見銀山資料館 通年	一般 児童・生徒	1,080
その他法人の目的 の達成に必要と認 められる事業	体験事業、受託事業	石見銀山資料館 通年	一般 児童・生徒	1,689